

主が備えられた道を見よ

(箴言3:1-12)

一、主の教えを忘れるな

1節に「わが子よ、私の教えを忘れるな。心に私の命令を保つようにせよ。」とあります。これは、第一義的には家庭において父親が息子・娘たちに教育したということ物語っています。やがて、律法の教師が門下生に教える際に使われていたと考えられます。なお、父親が子供に伝えたことは、教える父親も、その父から教えられたもので、聖書(律法)から始まり、徐々に預言者(書)、その他の書と、増えて行ったこととでありましょう。そういうわけで、ヨブ記に登場する知恵者の一人ヒルダデが語った、「さあ、先人に尋ねよ。先祖たちの探究したことを確かめよ。私たちは昨日からの者で、何も知らない」(ヨブ8:8、9)のように、先人たちが発見し、築いてきた知恵ではないのです。主のことばでした。

すなわち「主の教え」です。これを守るなら、2節の「長い日々と、いのちと平安の年月が、あなたに増し加えられるからだ。」となります。

二、アダムの過ちを犯さない

5節、6節を見てまいります。心を尽くして主に抛り頼め。自分の悟りに頼るな。あなたの行く道すべてにおいて、主を知れ。主があなたの進む道をまっすぐにされる。」とあります。神に創造された最初の人であるアダムは、「あなたは園のどの木からでも思いのまま食べてよい。しかし、善悪の知識の木からは、食へてはならない。その木から食べるとき、あなたは必ず死ぬ」と、神から言われました。そう言われた時、アダムにとつて「善悪の知識の木からは、食へてはならない」が、犯してはならない戒めとなりました。ですが、悪魔の化身のような存在として登場する蛇に、女がだまされて食べ、夫のアダムも食べてしまいました。この出来事は、善悪の知識の木そのものに魔力があったというより、アダムが「犯してはいけない」と言われた掟を破ったことよって下ったさばきです。その後のアダムは、見る角度を変えれば、神の存在を意識しないで自由に生きる、開放的な姿です。恐れるべきお方を恐れない人のすべてが、こつという姿です。そのことを意識して、今一度5節を見てみましょう。「心を尽

くして主に抛り頼め。自分の悟りに頼るな。」です。これは、アダムの生き方と正反対の生き方です。言い換えるなら「罪のしがらみから抜け出て、主の道を歩め」ということばです。また6節の「あなたの行く道すべてにおいて、主を知れ。主があなたの進む道をまっすぐにされる。」も、同じことが語られています。まさしく「罪から解放されて、主の道を歩みなさい」と語られています。ですが問題は、旧約の時代なので、どうやって主のみこころの道を歩み続けられるかです。罪の赦しの根拠は、紀元30年に罪のないキリストが私たちの罪をになつて、義なる神から罰を受けてくださった出来事です。同じことが、箴言のことばにも適用されます。アダムが犯した過ちから立ち返るように、5節、6節は語っています。それは、旧契約の時代であってもできることです。キリストの贖いは将来のことになりませんが、ましてや、今の私共にはできます。

三、献げることの祝福

9節をご覧ください。「あなたの財産で主をあがめよ。あなたのすべての収穫の初物で。」とあります。新改訳2017の翻訳はとも興味深いと思えます。と言いますのは、新改訳旧版はこうでした。「あなたの財産とすべての収穫の初物で、主をあがめよ。」と。この手の翻訳をしているのは、すなわち「あな

たの財産とすべての収穫の初物で」と訳しているのは口語訳、フランシスコ会訳、聖書協会共同訳です。そうすると、「財産と収穫の初物の両方をもって」の意味になるでしょうか。新改訳2017は「あなたの財産で主をあがめよ。」で、いったん切っています。続いて「あなたのすべての収穫の初物で」としていますので、「あなたの財産で」とは、すなわち「あなたのすべての収穫の初物で」の意味にもなり、なるほどと思えました。10節をご覧ください。「そうすれば、あなたの倉は豊かさで満たされ、あなたの石がめは新しいぶどう酒であふれる。」とあります。冒頭に「そうすれば」とありますが、元のテキストは「そして」を意味する接続詞があるだけなので、「そうすれば」は解釈の問題です。「そうすれば」と訳してしまえば、「献げるなら祝福されますよ」と読めてしまうので、どうかと思えます。聖書協会共同訳だけが「そうすれば」と訳さず、「あなたの倉は穀物で満ち搾り場は新しいぶどう酒で溢れるだろう。」としてあります。献げものの祝福は、献げただけが経験していますが、「献げることができた！」という喜びが起こり、その後のことは忘れていきます。

信仰が深まる近道はないと思えます。ですが神は、私共の信仰が深まるように、予め用意されていると思われれます。主が備えられた道を行ってください。